

サンエイインター 秋冬から卸売り主力 「ハーヴェルスタジオ」 受注生産で価値を追求

サンエイインターナショナルは20年秋冬に向け、婦人服「ハーヴェルスタジオ」を立ち上げる。卸売りのみを対象にした初のブランドの位置づけで、本質にこだわる大人に向けたワード



クレイ、ソイルなどアースカラーをベースに色の変化を美しく見せる

事業やファッショニブル向けの業態を運営しているが、第3の柱として中長期的に卸事業を育成する考え。「規模の大きさはなく、質の高さを重視して利益率を高めていきたい。受注生産型でブランドの価値を追求するビジネス」を検討していた折

ロープを企画、セレクトショップ販路を開拓する。大手アパレルのセレクト業態「ゼイナイ」や「ディレクター」を歴任した田口直見さんと契約した。現在は百貨店向けのブランド

に、フリーランスで活動する田口さんに出会い、方向性が一致して新ブランドに至った。3ラインの構成で来秋冬は約60型を企画した。エッセンシャルラインは、英国製の生地を使ったロングシャツ、ウールの梳毛のツイルを一枚立立てにしたトレンチコートなどトラッドアイテムを今っぽい量感で揃える。コンテンポラリーラインは、重ね着のできる単品のシルとシヨット丈コートなど「そき落としたシルエットで着心地の良さを追求」する。ドレスを中心としたファールラインは、シルク・ウールのテラードアイテム、トリアセテートのサテンで帯のような切り替えを入れたトップなど、上質素材を使ってドレスタウンも可能なフオールドム。価格はコート・ジャケット7万5000〜16万円、ドレス4万2000〜13万円、ボトム3万1000〜13万円、シャツ2万1000〜6万円。